

事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042(769)9222
担当部課名	保健福祉部	地域福祉	課	民生 班
事務事業名	戦争犠牲者援護費		事業コード	18110

1 総合計画における位置づけ

政策名	第-8章	国際平和と人権が尊重される社会を実現します	事業開始年度
基本施策名	第1節	世界とともに生きる地域社会の実現	年度
施策名	第1施策	国際平和への貢献	

2 実施根拠及び関連法令等

--

3 事業概要

(1) 事業の目的		(2) 対象(誰、何)	
戦争犠牲者等(中国残留孤児等帰国者含む)及び遺族に対し、その労苦をねぎらい援護を行うことで自立支援・福祉向上の一助とし、遺族等の伝承により平和思想の普及を図る。		戦争犠牲者及びその遺族	
		対象数	
(3) 平成13年度事業の内容		(4) 総合計画・実施計画における概要	
(主な内容) ・県戦没者追悼式への参列補助等(参列者バス借料、供花代) ・中国残留孤児等帰国祝金等 H13実績なし ・市戦没者遺族会への運営補助金 612,000円 ・相模原原爆被災者之会への運営補助金306,000円		平和意識の普及、啓発を図り、国際平和に貢献します。	
総事業費 1,271千円 報償費 10千円 旅費 153千円 需用費 85千円 使用料・賃借料 105千円 負担金・補助金 918千円		(5) 個別計画の概要	
		計画名	
		計画年次	年度～ 年度

4 評価指標

指標名	遺族会会員数減少率	原爆被災者之会会員増減率
指標式	各年度の会員数/前年度の会員数×100 (H13度の計算式: 1111人/1142人×100)	各年度の会員数/前年度の会員数×100 (H13度の計算式: 109人/137人×100)
指標設定の意図	戦没者遺族会の会員の抑制していくことで成果を表す。	原爆被災者之会会員の増減率で成果をあらわす。

5 目標と実績

〔金額単位: 千円〕

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度	
	実績	実績	実績	目標	目標	
指標	97.3	98.7	a 97.3	b 100.0	100.0	
指標	89.8	129.2	c 79.6	d 100.0	100.0	
指標			e	f		
事業費	決算(予算)額	1,313	1,506	1,271	1,428	1,418
	人員・時間数	0.25人	0.25人	0.25人	0.25人	0.25人
	人件費	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100
	その他経費	0	0	0	0	0
	合計	3,413	3,606	3,371	3,528	3,518
特定財源	152	162	176	150	150	

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか														
評価 B ▼	A:達成している (100%)	= 、 、 の平均値 = 88.4%												
	B:一部達成していない(100%> 80%)													
	C:達成していない (80%>)													
a	97.3	b	100.0	$\times 100 = 97.3\%$	c	79.6	d	100.0	$\times 100 = 79.6\%$	e		f		$\times 100 =$
理由:	一概に団体の会員数で評価をすることはできないが、ひとつの目安として指標とした。													

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か			
評価 A ▼	A:適応している	理由:	戦争の記憶の風化していくなか、戦争犠牲者及び遺族等に援護を行ない、ひいては平和思想を広めることは重要である。
	B:一部適応していない		
	C:適応していない		

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か			
評価 A ▼	A:妥当である	理由:	事業内容から費用対効果をあらわすことは困難だが、遺族会、原爆被災者之会の会員が減少していく中、経済性は高いといえる。
	B:一部妥当でない		
	C:妥当でない		

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か			
評価 A ▼	A:代替の可能性ない	理由:	市としての戦没者遺族援護施策を県や民間の事業として代替はできない。
	B:代替の可能性低い		
	C:代替の可能性高い		

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか			
評価 A ▼	A:満足できる	理由:	戦争犠牲者の労苦に対し、その満足度を図ることは困難だが、市としてできる援護は他の事業(慰霊祭)とあわせ、行なっている。
	B:一部満足できない		
	C:満足できない		

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か			
評価 B ▼	A:有効である	理由:	国際平和への貢献という上位の施策と直接の結びつきは難しいところだが、当該事業は戦争犠牲者の援護には欠かせないものである。
	B:一部有効である		
	C:有効でない		

<p>評価バランスチャート</p>	<p>成果向上の余地</p> <input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない		<p>説明:</p> 成果の判断が困難であるので、なし。
	<p>コスト改善余地</p> <input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない		<p>説明:</p> これ以上経費を圧縮することは、難しい。

7 総合評価

評価	AA ▼	他自治体の類似事業との比較	
今後の進め方			
<input checked="" type="checkbox"/>	継続	説明	市の戦争犠牲者援護策が事業の目的を完全に果たしているかは判断しがたいが、各団体等との関係において一定の評価は得られていると思われる。今後についても、対象者等の意見を取り込みながら確実に継続する。
<input type="checkbox"/>	見直し		
<input type="checkbox"/>	廃止		
<input type="checkbox"/>	完了		

8 二次評価における変更点

--